山形大学男女共同参画推進室

創刊号 2009

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費
「女性研究者支援モデル育成」事業

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

学長　結城 章夫

山形大学は「男女共同参画」を実現します

山形大学長・男女共同参画推進委員会委員長挨拶

今、大学をはじめとするあらゆる組織は、その組織を構成する人材の年齢や国籍など多様性（ダイバーシティ）を積極的に活用して、組織の活性化と発展を図ることが求められています。そして、活用すべきダイバーシティの1丁目1番地が、「男女共同参画」なのです。

山形大学は、東北地方有数の総合大学として、「男女共同参画基本法」の理念を踏まえ、全ての学生と教員・職員が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる大学創りを目指しています。この取り組みを具体的に進めていくために、平成21年2月に、学長直属の組織として「山形大学男女共同参画推進室」を発足させました。この推進室を中心にして、様々な活動が開始されたところです。

山形大学の取り組みは、ようやく緒に就いたばかりですが、これから、全教員・職員の意識改革を進め、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）がとれ、「男女共同参画」が実現された大学となるように、学長が先頭に立って努力していくつもりですので、皆様の暖かいご理解とご支援を宜しくお願いいたします。

ニューズレターの創刊にあたって

男女共同参画推進室 北野通世室長

この度、男女共同参画推進室が行う広報・啓発活動の一環として「男女共同参画推進室ニューズレター」を創刊することとなりました。このニューズレターは、学内に広く男女共同参画推進に関する種々の情報を提供すると共に、本学における男女共同参画推進に向けた意識を醸成することを目的とするものです。

今年2月、本学に男女共同参画推進室が設置され、本学における女性研究者支援をはじめとする男女共同参画推進のための具体的方策の策定・実施と共に、男女共同参画推進の広報・啓発活動を遂行しています。このニューズレターにより、本学の教職員、学生の皆様に、男女共同参画について関心を高めていただき、そのことが、本学における男女共同参画社会の実現のための諸方策の推進に参加していただくための一つの契機となることを願っています。

男女共同参画推進室の看板を上掲しました。（2009年8月）左から結城学長・北野理事（室長）・河田理事（副室長）

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業とは何ですか？

女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等の両立や、その能力を十分に発揮しつつ、研究活動を行える仕組み等を構築するモデルとなる優れた取り組みを支援する事業です。

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/koubo/06060127/002.htm

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

「山形ワークライフバランス・イノベーション」が採択されました。

■具体的な取り組み

- 意識改革すなわち男女共同参画に関して「知ること」
- 女性のおかれている現状を「見ること・見せること」
- 仕事と育児の両立を可能にする相談・支援体制が整備された職場づくり
- 女性研究者の裾野拡大のための施策

→ ワークライフバランス・イノベーションの実現

■体制図

■男女共同参画推進委員会

結城　章夫	学長・男女共同参画推進委員長
河田　純男	理事（研究担当）
北野　通世	理事（総務担当・広報担当）
高木　　直	理事・副学長付きスタッフ / 地域教育文化学部 教授
河野　銀子	理事・副学長付きスタッフ / 地域教育文化学部 准教授
金子　優子	人文学部 教授
長谷見晶子	理学部 教授
鈴木　匡子	医学部 教授
八塚　京子	工学部 准教授
木村　直子	農学部 准教授
小島　浩孝	総務部長
鈴木　英一	企画部長
冨樫　　整	保健管理センター所長

■男女共同参画推進室

北野　通世	室長
河田　純男	副室長
高木　　直	理事・副学長付きスタッフ
河野　銀子	理事・副学長付きスタッフ
木村　松子	チーフ・コーディネーター
幅崎麻紀子	サブ・コーディネーター
坂無　　淳	サブ・コーディネーター
松井　一澄	研究プロジェクト戦略室教授
淵辺　　威	総務部人事ユニット長
松森　康夫	企画部研究支援ユニット長
大沼　一男	総務部労務ユニット長

私たちスタッフが女性研究者の活躍を全面サポートします。（左から坂無・幅崎・木村・三宅）

管理職の意識改革セミナーを実施しました。

テーマ「セカンドステージに入った男女共同参画～大学は『21世紀最重要課題』をどう受け止めるべきか～」

平成21年9月11日開催

鹿嶋 敬 氏

鹿嶋敬氏（実践女子大学教授・内閣府男女共同参画会議議員）を迎え、特別講演会を開催しました。

講演では、男女共同参画基本法の施行から10年が経ち、その間に何が起きたかという経過についての説明があり、その成果を踏まえ、セカンドステージに入った男女共同参画の具体的な課題や新たな課題解決の実践的な取り組みについて述べられました。

引き続き、大学が男女共同参画に対して行うべき課題として、男女の人権の尊重、政策等の立案・決定への共同参画、家庭生活の活動と他の活動の両立という観点から具体的な提言がなされました。

今回の講演会は、本学が平成21年度に文部科学省の「女性研究者支援モデル育成事業」として採択された「山形ワークライフバランス・イノベーション」事業の一環として、管理職員の意識改革を図る観点から開催したものです。参加した職員からは、「今後大学が取り組むべき課題として重要だ」、「認識を新たにするお話だった」などの声が寄せられています。

Information ❶

第2回教職員アンケート調査実施中

山形大学における男女共同参画を実のあるものにするため、昨年度に引き続き教職員のアンケート調査を実施しています。昨年度の結果概要は、男女共同参画推進室のホームページでご覧いただけます。また、今回の結果もホームページやシンポジウムで順次報告していきますので、教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

研究と育児等の両立支援 東北初の託児サポーター制度スタート

研究や会議などで要請があった時にキャンパス内に託児ルームを設け、「託児サポーター」として研修を受けた学生が保育士と一緒に保育を行うシステムの運用が12月1日から始まります。

それに向けて、サポーターを目指す学生の現場実習が、山形市内の子育て支援施設で行われました。さっそく新聞の1面に紹介されたり、テレビ放映されるなど、県民の方々の期待の大きさが感じられました。また、「報道を見て、大学院への社会人入学を考えています」という声も寄せられました。子をもつ女性・男性に学びや研究への道を大きく開くものとなると考えています。なお、11月16日より託児サポート利用登録及び申し込みを受け付けています。詳細はパンフレット等をご覧ください。TEL●023-628-4937

山形大の女性研究者や職員の子ども6人を学内で預かる託児サポーターとして研修を積む学生たち＝山形市・子育てランドあっぺ

平成21年10月1日
山形新聞

女性研究者ら支援
学生が保育
山形大、学内託児システム運用へ

女性研究者や職員の子ども学内で預かる

一時保育を学内で行う託児システムの運用が、10月中旬から山形市の山形大小白川キャンパスで始まる。研究や会議などで急に子育て支援施設「子育てランドあっぺ」で始まった。

同大の女性研究者、教職員は本年度で100人余。仕事と家庭の両立支援として、男女共同参画推進室が中心になり、学内での一時保育を始めることとした。文部科学省の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択された同大の非常の一環として国の補助を受ける。

昔は子は親戚や近隣を利用していたケースがほとんどだったが、一時保育を行うのは実験や研究、会議などで託児の緊急がかかった当日の午後5時から翌8時、子育て中の大学院生も利用できる。予約が入り、託児サポーターの研修に参加、30日からは、梨子が原ひろば等一時保育施設が多くあるチャンパス内に託児ルームを設け、「託児サポーター」として研修を受けた学生が保育を行う。サポーター自指す学生の現場実習が30日、同市の子育て支援施設「子育てランドあっぺ」で始まった。

託児サポーターは学部学生も利用できる。今、初かり対象は小学生以下。10月中旬から受け入れを始める。本年度は試験運用期間として無料、来年度以降は料金徴収する。保育に当たっては、1人1日あつ出に時給850～800円が支給される。

4人を含む33人が支給される。

女性研究者等への巡回相談事業を11月から開始

女性研究者（教員＋博士課程の院生）の研究と生活の現状を把握するとともに、バランスの取れた研究・生活を送る上で、どのような問題や障壁があるのかをくみ上げ、解決を図っていこうという事業です。

4キャンパス（飯田・小白川・米沢・鶴岡）を巡回し、166名の女性研究者と面接いたします。相談員として會田・管生・村山の3名が巡回します。巡回相談回数は、各学期1回以上を予定しています。巡回相談以外にも、男女共同参画推進室にて、随時来室相談、メールや電話での相談を行っています。ご利用ください。

TEL●023-628-4937、4938、4939　E-mail●danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

EVENT紹介
山形大学農学部
お問い合わせ先
TEL 0235-28-2803

女子高生・女子大生のためのキャリアセミナー

農学部系卒女子のお仕事って？
～先輩に聞こう！～

農学部系の進学・就職を考えている女子高生および現役女子学部生を対象に、農学部を卒業後、理系職で活躍している若手の方から講話を頂き、女子学生の将来のビジョン形成に役立ててもらうことを目的としています。

今年の夏休みに行われた女子高生のためのキャリアセミナー（21年8月5～6日）女子高生34名参加

●日程／平成21年12月19日（土）
14：00～16：30
●会場／山形大学農学部301教室
●対象／農学部系・理学部系への進学を希望する鶴岡近隣在住の女子高生・農学部女子学生
●お問い合わせ／担当：菅原
TEL 0235-28-2803
E-mail noukich-s@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

第1部
農学部OGによるプレゼンテーション
「私たちの職場はこんなところです！」
・三宅裕子さん（武田薬品工業（株）開発研究センター・研究員）
・大木庸子さん（環境省東北地方環境事務所・自然保護官）
・大井歌奈子さん（森永製菓（株）菓子マーケティング部企画担当）
・岡部幸子さん（元青年海外協力隊、現（財）山形県国際交流協会・相談員）
・鈴木雪絵さん（山形大学農学部・技術職員）

第2部　パネルディスカッション　第3部　農学部構内施設見学会（希望者）

女性研究者からの The Message【第1回】

◎今後、女性研究者を順次紹介してまいります

泉 多恵子 先生

山形大学大学院理工学研究科教授

◎ご研究の魅力を教えてください。

望みの有機分子を効率よく自由自在に造ることを目指して、新しい方法を開発してきましたが、考えたことを実験で証明してゆく楽しさがあります。有機分子の多様さを広げ、人間に役立つ機能性を追求し、それを造りだすというやりがいのある分野です。

◎好きな言葉は何ですか。

「千里の道も一歩から」

◎若き学生と女性研究者たちへ

あと半年で定年となる私にとって、近年の「男女共同参画」の動きは、かろうじて現職の時にその流れを実感できたということで嬉しいことです。私は、大学卒業以来、研究と教育に携わってきましたが、アメリカやカナダに博士研究員として2年余りを留守にした他は、米沢の工学部の化学系で過ごしてきました。確かに男子学生の多い学部であり、男子教員の多い職場ではありますが、特に大変とか寂しいとかも思わずに過ごしてきましたのは、私の世代の考え方が身についているからだと思います。今の若い人から見たらセクハラとかパワハラとか言ってもよい環境や言動がたとえあっても、そのような考え方がない時代でしたから、「いやなら辞める」のは何時でも自分自身の問題として過ごして来たように思います。

研究の楽しさを知ったのは卒業研究を始めた大学4年の時でした。その秋には学会発表を行い、研究が仕事にできたらいいなと思うようになっていました。それを実現すべく大学院への準備をしていた時に、工学部で助手の席があるという話が舞い込み、研究者としての将来の展望もないまま、研究ができるというだけで工学部の助手に就職しました。恩師からは、「女性が研究を続けたいなら、男性研究者と同じ仕事ぶりではだめで、2倍は研究をするように」と言われた時代でした。研究は有機合成化学分野で、有機金属触媒や酵素反応を利用した新規な反応の開発、また、機能性有機分子類の合成について、多くの学生達と楽しんでやってくることができました。

私の時代は研究か家庭かのどちらかでしたが、これからの女性研究者は、研究も家庭もということで支援を貰える時代です。遅まきながらも日本の進歩であり、国がそれに取り組んでいる新しい時代です。その変化を意識し、好きな仕事を悔いのないように続けていって欲しいと思います。ゆっくりでも少しずつ良くなっているこの流れを繋げて欲しいと願っています。

人は時代の中で最善を尽くすものであり、甘えず弛まず頑張ってください。

Hello! University 他大学の取り組み紹介

北海道大学

北大F3プロジェクト

理・工・農の3分野に特化した
↓ 強力なポジティブアクション
5年間で25人の女性正規教員を採用

F3：Fresh Female Faculty
＊3Fieids（理・工・農3分野）
＊第3世代の女性研究者

理・工・農分野に係る教員公募を
↓ 女性だけを対象に実施

【雇用人件費】
◆最初の3年間：採用部局負担ゼロ
◆続く5年間：採用部局負担½
◆それ以降：採用部局が全額負担

◆対象部局には…
思い切って女性教員を採用する機会を！

◆女性研究者には…
実戦力としての能力を評価してもらう機会を！

このコーナーでは、同じく女性研究者支援モデル事業に取り組む他大学の事例を紹介します。

第1回目は、北海道大学です。北大では、平成18年度から、「ポジティブアクション北大方式」を始めました。これは、新たに女性教員を採用した場合、各部局が負担する人件費の1/4を全学運用人件費より補填するという、北大独自の画期的なシステムです。

平成21年度からは、「女性研究者養成システム改革加速」事業の採択を受け、理・工・農の3分野に特化した、より強力なポジティブアクション「北大F3プロジェクト」が進められています。この事業は、理・工・農3分野の正規女性教員（助教、講師、准教授）の採用にあたって、人件費の部局負担を、最初の3年間はゼロにし、続く5年間は1/2にするものです。F3プロジェクトでは、女性研究者養成システム改革加速事業の期間（5年間）で、理・工・農分野に毎年5人、計25人の正規女性教員増員を予定しています。

●詳しくは北大女性研究者支援室 http://freshu.ist.hokudai.ac.jp/
F3プロジェクト http://f3project.ist.hokudai.ac.jp/index.html をご覧ください。

Information ❷

「ワークライフバランス」特別講演会 開催します！

講師 佐藤博樹氏（東京大学社会科学研究所教授）

●日時・会場／12月2日（水）15：30～17：30・事務局第1会議室（工・農はTV会議）
●対象／管理職員をはじめ教職員はどなたでも
●申込み／所定の用紙に記入、あるいは内線4937まで

編集後記／山形の山並みが美しく色づいております。多くの方々のご協力を得て、創刊号が発行できましたことを感謝申し上げます。山形大学がワークライフバランスを実現した研究・教育組織へと発展することを願ってニューズレターを発行してまいりたいと思います。2009年11月

小白川キャンパス事務局2階に、男女共同参画推進室のスペースが設置されてから3ヶ月が過ぎました。女性研究者の身近な交流の場、子育て支援・託児相談の場、情報収集の場としてもご活用ください。また、皆様の声もお聞かせください。お待ちしております。

山形大学男女共同参画推進室
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937、4938、4939
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo.html